

「花尾小学校の岩戸疱瘡踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立花尾小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計15名）

3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所：平成28年11月12日・16日 総合的な学習の時間 花尾小体育館
平成28年11月 昼休み時間の時間帯 3・4年生教室等
- (2) 発表の日時・場所：平成28年11月27日（日） 学習発表会及び花尾地域ミニ文化祭
花尾小体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

- (1) 名称 「岩戸疱瘡踊り（いわどほうそうおどり）」
- (2) 由来

岩戸疱瘡踊りは、藩政時代から踊り継がれてきた古い踊りであると言われている。昔、恐ろしい伝染病である天然痘が蔓延したことがあり、その予防と早い治癒を願って踊るもので、真剣な祈りの心が込められた優雅な踊りである。天然痘が絶滅し、踊りも一時途絶えていたが、終戦後に復活し、今では地域の行事や地区の文化祭などで踊られている。

平成17年に鹿児島市の無形民俗文化財に指定された。

- (3) 構成等

この踊りは、前踊りと後踊りで構成されている。前踊りは、手踊り20名くらいに太鼓打ちと太鼓持ちが6組ほどで、三味線に合わせて踊り、手踊りの中に傘踊りも入る。後踊りは、黒装束の3名の大シベ持ちがいて、そのシベ持ちの後ろに踊り子がつく。踊り子は小シベを持ち、横3列から4列ぐらいでシベ踊りをする。その後、踊り子が円になって踊り、大シベ持ちは円の中に入る。音楽は三味線と太鼓と拍子木等を使う。踊り子の服装は豆絞りの手ぬぐいに、赤の長襦袢、浴衣（昔は緋）に白足袋姿で踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間に、花尾地域固有の良さに気付き、伝承していくことの大切さを自分事として受け止め、よりよい解決を目指して行動する一連の探究活動の過程に、踊りの練習（体験活動）を位置付けた。講師は疱瘡踊り保存会にお願いし、今年度は土曜授業日を含めて2回指導をしていただいた。子どもたちは学習発表会前には、昼休み時間を活用し自主的に練習した。踊りに必要な用具（傘や太鼓、箆）は、保存会から借用している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら岩戸疱瘡踊りを継承していくために、3年から6年まで4年間学ぶ。保存会の方から学んだ踊りや太鼓打ちを4年間実践することで、高学年が新しく学ぶ3年に指導することができるようになる。

昨年度までは、3年以上の女子が踊りだけを披露していたが、本来の形である太鼓踊

りも復活させたいという地域の願いから、今年度から3年以上の男子が太鼓踊りを担当した。発表の場を学習発表会及び花尾地域ミニ文化祭のプログラムの中に位置付け、約150名の地域の方々の参観が得られた。

7 取組の様子



【11月12日 踊りの練習をする子どもたち】



【11月12日 太鼓の練習をする子どもたち】



【11月27日 学習発表会で疱瘡踊りを披露する子どもたち】

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- きれいな浴衣が着れて、楽しく踊れるので、毎年楽しみだ。(4年女児から)
- 難しい踊りだが、練習を重ねるとどんどん上手に踊れるようになっていくので、とてもうれしい。一生懸命に踊る姿を校区の人にも見てもらいたい。(4年女児から)
- 初めに(太鼓の)練習をしたときには、とても難しくて覚えられないと思ったが、練習していく内に覚えられて、学習発表会では太鼓をしっかり打つことができた。(6年男児から)
- 花尾校区内には3つの伝統芸能があるが、これまで学校の授業の中で練習・披露を行っているのは「岩戸疱瘡踊り」だけである。次年度以降、「大平獅子舞踊り」についても、総合的な学習の時間に探究活動を行い、将来は合同運動会で披露するようにしたい。(教職員から)
- 指先や視線、姿勢まで細かな点でいうとまだまだであるが、子どもたちが伝統芸能を継承してくれることに感謝している。(保存会の方から)
- 子どもたちが「岩戸疱瘡踊り」を通して、自分たちの住む地域を知り、また地域との関わりを持てることに喜びを感じる。(保護者から)